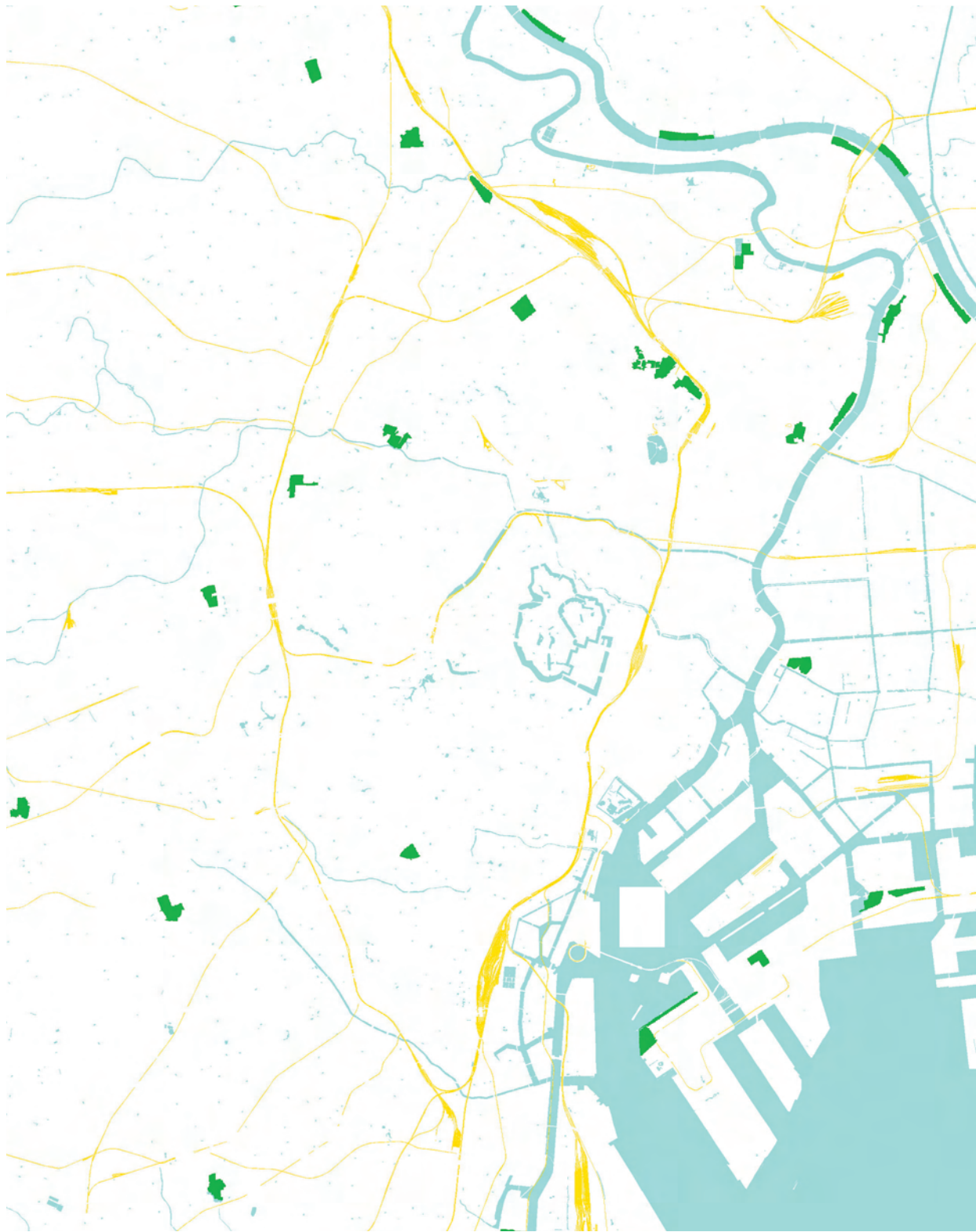


## 50000 m<sup>2</sup>以上 100000 m<sup>2</sup>以下の公園の分布

- ・河川敷き、海岸沿いの緑地が多い。

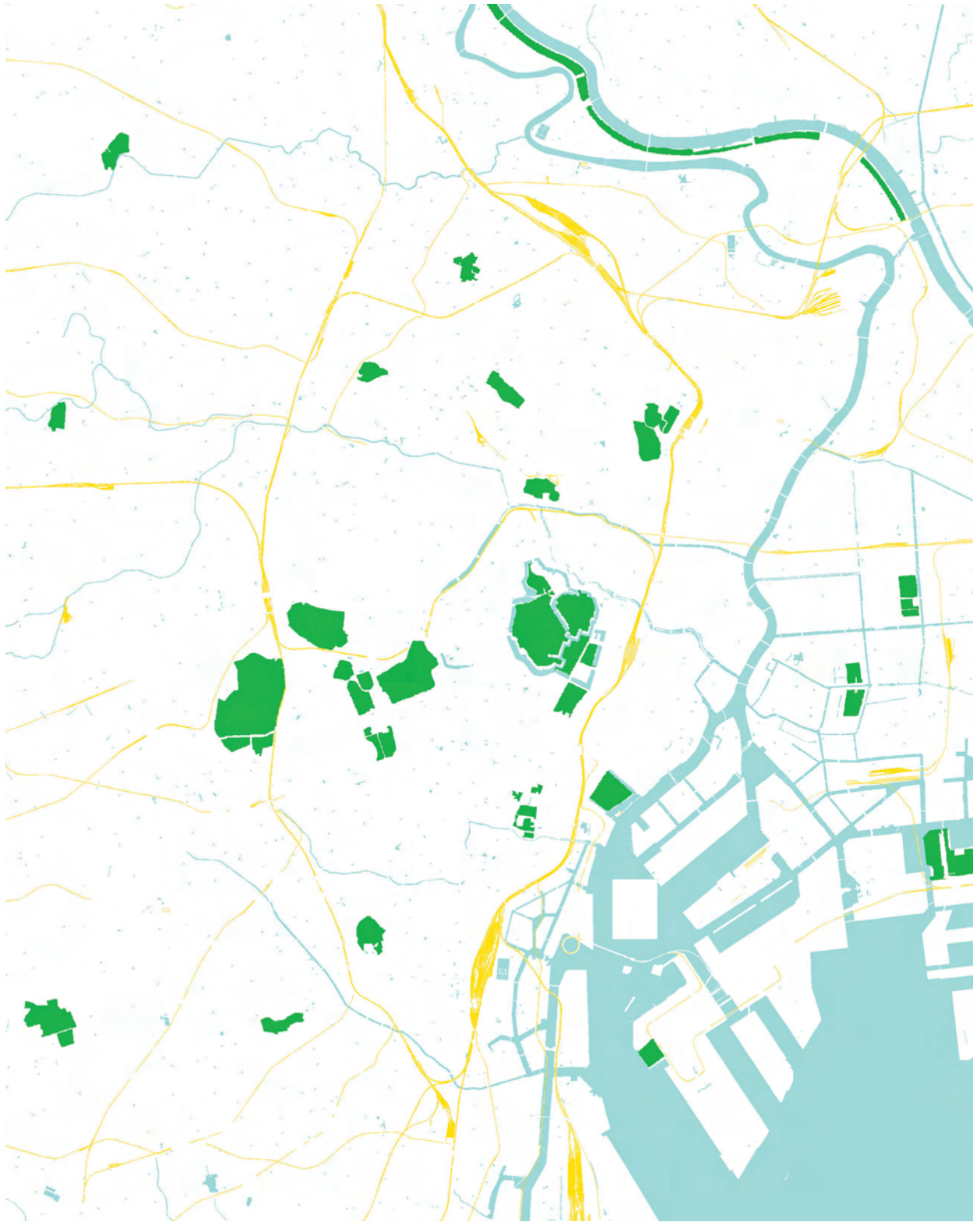
fig. 2.4 50000 m<sup>2</sup>以上 100000 m<sup>2</sup>以下の公園の分布  
s = 1 : 75000



## 100000 m<sup>2</sup>以上の公園の分布

- ・ 山手線内側に多く存在する。
- ・ 皇居、赤坂御所、神宮内苑・外苑といった、ロイヤルパークが目立つ。

fig. 2.5 100000 m<sup>2</sup>以上の公園の分布  
s = 1 : 75000

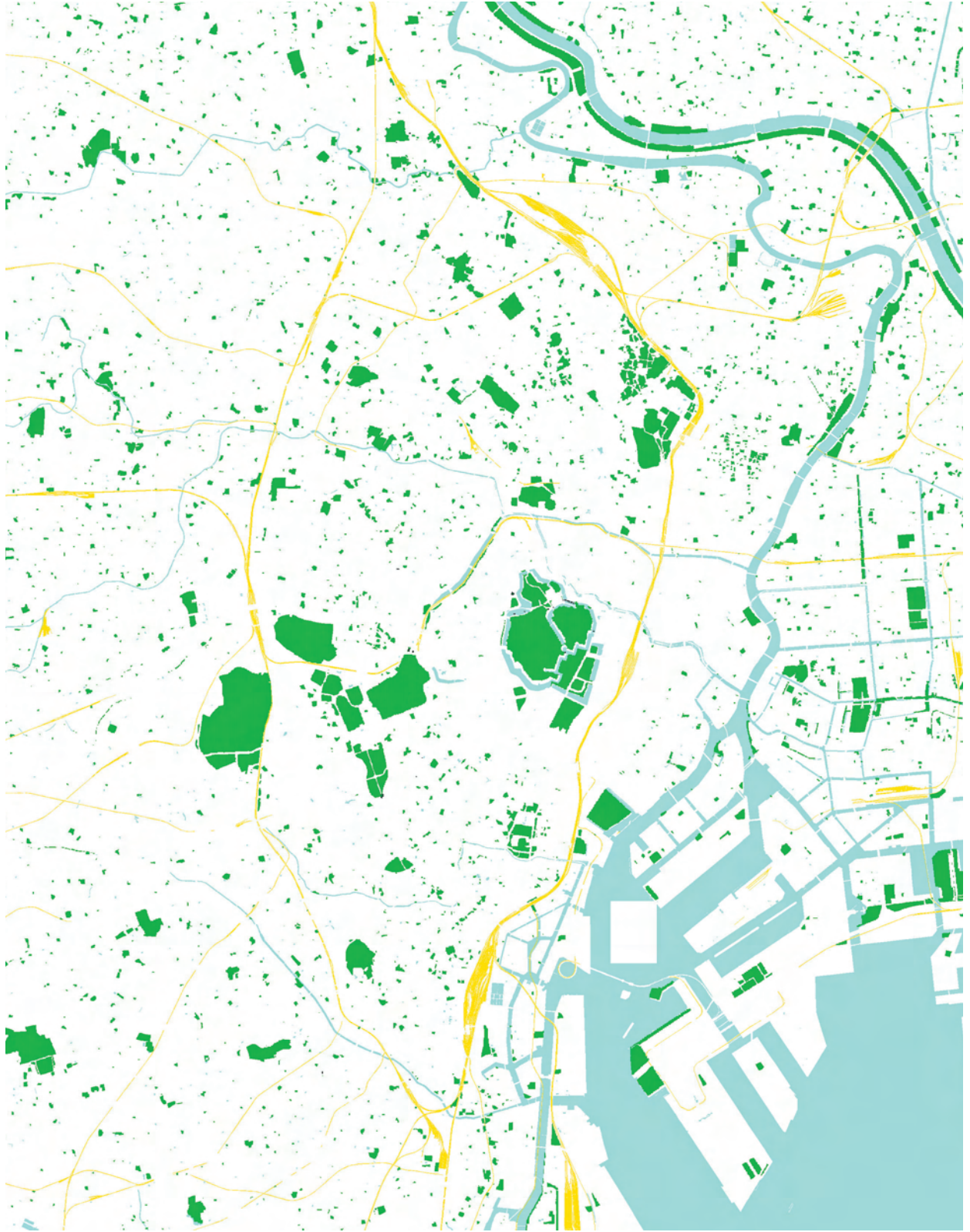




## 全ての公園・緑地

東京の公園は、皇居から代々木公園までに大きな面積を占めるロイヤルグリーンがあり、あとは大小様々な公園が散在するという構造をしている。

fig. 2.6 東京の公園の分布  
s = 1 : 75000

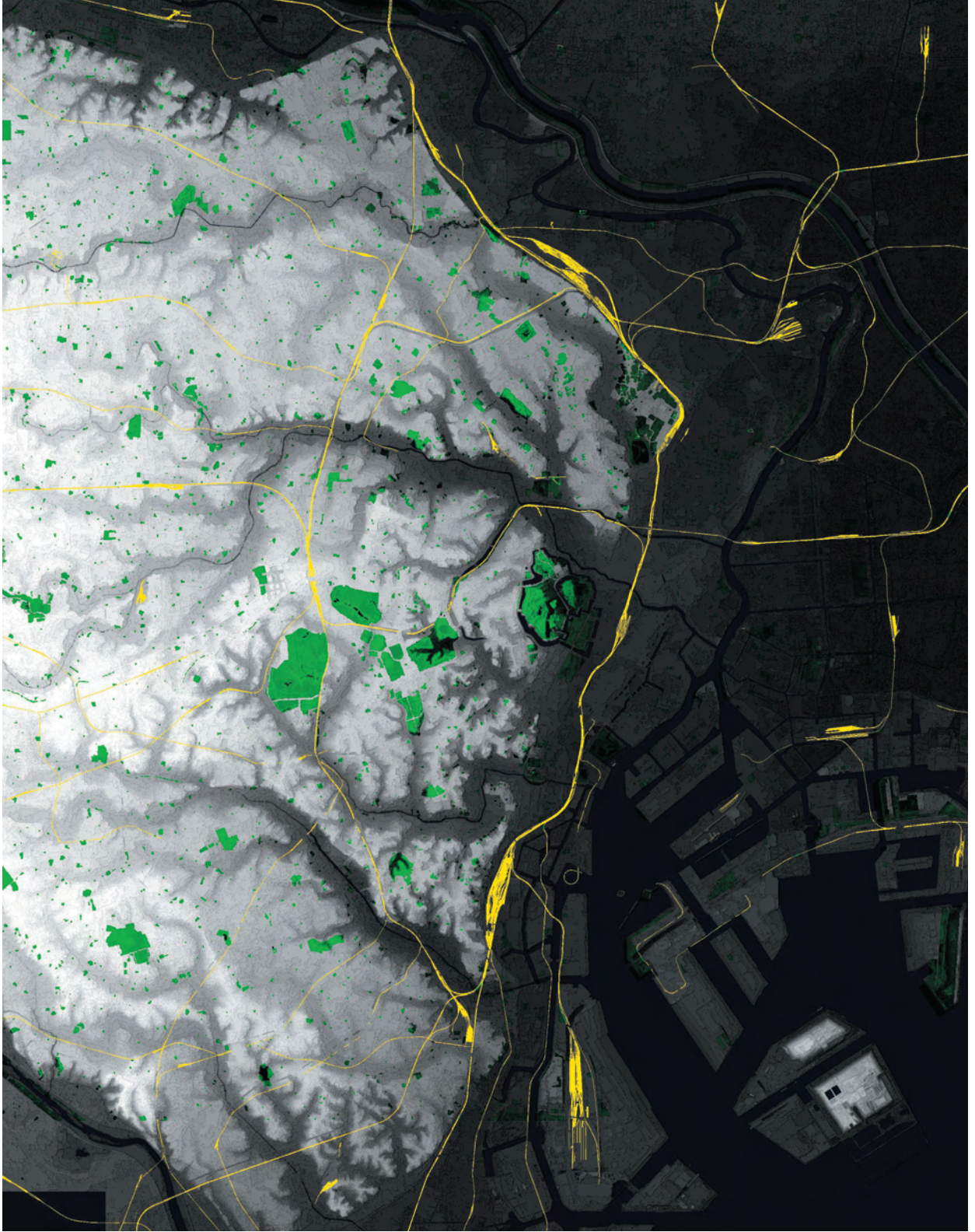




## 公園と地形

- ・東京の地形は、東の沖積低地＝東京下町と西の武蔵野台地＝山の手に二分される。
- ・山の手にある公園は、地形のへりを境界とするように位置するものが多い。

fig. 2.7 東京の公園の分布と地形との関係  
s = 1 : 75000





## 調査範囲

下町、山の手の両方の地域を含むように、皇居を中心とした12km四方の範囲に含まれる公園を対象にすることにする。また本論文のテーマである公園と周辺都市の関係を分析するには、公園の境界がエッジとなるため、大規模な公園で市街地に面していることが望ましいと考え、調査地として以下の11の公園を選択した。

fig. 2.8 東京の公園の分布と調査範囲  
s = 1 : 75000

